
愛すべき愛しの我が愛猫たち

北野 鹿乃子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛すべき愛しの我が愛猫たち

【Nコード】

N4270E

【作者名】

北野 鹿乃子

【あらすじ】

短歌第2弾です。今回は飼い猫をテーマにしてみました。

（前書き）

いやー、字余り字足らずが酷い酷い（汗）あまり気にせず楽しんでいただければ幸いです。

偉そうに
ふんぞり返って
腹を見せ
さあ、なでなさいと
女王が鳴く

ふりふりと
逃げてゆく尾を
追いながら
ちよつと楽しそうな
一匹一人

振り返り
誘う猫に
ついてゆき
知らんぷりする猫にも
ついてゆく

足音で

わかってしまう
あなたのこと
でもそれは
猫としていいのかい？

嫌がられ
ますますいじり倒したくなる
そのフキゲンな顔が
たまらない

逃げるから
余計にかまいたい
追いかけて
あわてて逃げる
後ろ姿 愛しい

すまし顔
つれない態度を
とりながら
ふり返る君は
誘い上手

ツンデレとは
君の存在にこそ
ふさわしい
一番ぴったりの言葉だ

散歩道
上って行くと
いつの間に
君はうしろに
ついてきていた

甘えたい時にだけみせる上目遣い
そんな目されたら
何でもしちゃう

毛繕いしている姿
まるでおっさん
メタボな腹に
邪魔されている

横にある
ペットボトル

500ミリリットルか
あ、違った
2リットルだ

わがままも
魅力のひとつ
ただそれを
全部許すはずはありません

ひっかかれ
噛みつかれても
嫌えない
愛情表現のひとつと思うから

このように
自慢して回りたい
猫のこと
親バカならぬ
飼い主バカ

帰ったときに

ホッとする

私を忘れずにいて
迎えてくれるから

こんなにも

好きなことには

理由はない

ただ本当に

大好きなだけ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4270e/>

愛すべき愛しの我が愛猫たち

2010年10月12日07時41分発行